

# 平成 27 年度事業報告書

(平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)

一般財団法人オレンジクロス

財団設立2年度にあたる今年度は、以下の基本理念、運営方針に則り、研究開発部門、啓発部門で、各種公益目的事業を実施しました。今年度も前年度に引き続き、研究部門では3研究委員会と1プロジェクトを、また啓発部門では3事業を継続実施しました。以下、個別に事業の取り組み内容を報告します。

## 公益目的事業

高齢者の医療・福祉に関する調査・研究・研究助成、その成果を活用したプログラム等の開発・提供及び人材育成並びに地域医療・福祉の事業モデルの啓発及び地域医療・福祉に貢献する団体・個人の表彰

### ○基本理念—地域包括ケアシステム構築への最大の貢献を目指す—

地域看護と家庭医療を中核とする医療・看護・介護・予防を統合し、有機的な連携を確立し新たな『統合型生活医療』を創造し普及する

### ○運営方針

- 1) 自ら研究を行い、地域包括ケアシステム構築に資する新たな価値を創造する
- 2) 医療・看護・介護の現場で活躍している方々の活動を支援する
- 3) 高齢者・ご家族の安心した将来の生活環境を構築するための、地域包括ケアシステムにおける新たな価値の啓発に取り組む

上記基本理念、運営方針を踏まえ、サービス間の有機的な連携を確立した『統合型生活医療の創造』、『医療・看護・介護現場への貢献』を推進するために、研究開発部門・啓発部門の2つの部門を通じて、下記に取り組みました。

### 【研究開発部門】

高齢者の医療・福祉に関する調査・研究・研究助成、その成果を活用したプログラム等の開発・提供及び人材育成

#### 1. 「統合型生活医療の創造」のための「地域包括ケアシステム」のあり方の研究・開発活動

##### (1) 「ソーシャル・コミュニティ・ナーシング(SCN)機能」の研究(「SCN 研究会」)

当財団では、平成26年9月に「SCN 研究委員会」を組成しました。研究委員会は、田中滋氏(慶応義塾大学名誉教授、医療介護総合確保推進会議議長、社会保障審議会委員<介護給付費分科会長、医療部会長代理>)を委員長とし、公益社団法人日本看護協会スタッフ、東京大学教授などを含む8名で構成しています。この研究委員会で(a)地域包括ケア病棟、在宅療養支援

診療所、訪問看護ステーションなどさまざまな実践事例を分析し、SCN 機能の抽出を実施する、(b)医師、看護師、リハビリテーション技師、ケアマネジャー、介護福祉士などが担い行う業務を、医療と介護という視点ではなく、地域ケアという連続性の中で捉えることが可能かどうかを評価する、(c)上記(a)(b)を元に、「SCN 機能開発プログラム」(SCN 機能を、地域の状況や特性に応じて設定し、担当者を育成する仕組み)を開発していく、などの研究を行っています。今年度は4回の議論により、1)「SCN の対象者」とは①医療依存度が高い、②中重度のケアニーズがある住民(障害者(児)、がん末期など)であること、2)「SCN の必要条件」とはケアラーとしてのナースでなく、アセッサーとしてのナース(対象者や地域をアセスメントできる)である、という仮説を立て議論しました。

## (2)「家庭医療・老年医療のあり方」の研究(「家庭医療・老年医療研究会」)

当財団では、平成26年9月に、生活の場である地域で、他のサービスとも統合的に機能する基準(=体系)の策定のために、「家庭医療・老年医療研究委員会」を組成しました。具体的には、(a)看護師と「かかりつけ医」との連携強化、(b)在宅診療における医師・看護師・リハビリテーション専門職・薬剤師・介護職などの機能分担・トリアージ基準を研究目的としています。研究委員会は、飯島勝矢氏(東京大学高齢社会研究機構教授、医師)を委員長、辻哲夫氏(東京大学高齢社会研究機構特任教授、元厚生労働省事務次官)をアドバイザーとし、医師4名、看護師2名を含む9名で構成しています。今年度は、1~2ヶ月に1回の頻度で、計9回開催しました。

これまでの議論の結果、「在宅診療における家庭医の機能と、現実に訪問看護師から見た家庭医の現状とのギャップ(①往診医と訪問看護師の間でコミュニケーションの欠如、②チーム医療が出来ていないなど)を炙り出すこと」が、当面の本研究会でのゴールと位置付けました。この問題意識に基づき、今年度は、訪問看護師と家庭医の双方にインタビュー(医師:3回4人、看護師2回、3人)を行い、双方のギャップを明確化(炙り出し、ギャップの深堀り)すると同時に、これからの「ギャップ」分析に資するよう「ギャップ」に関わる専門職の特性・意識・慣行・職場環境等バックグラウンドを広く把握しました。

## (3)統合ケアマネジメント事例検討会

当財団では、平成26年9月に、「国立社会保障・人口問題研究所」および「地域包括ケアイノベーションフォーラム」との共催で、「統合ケアマネジメントに向けた事例検討会」を組成し、統合的なケアの提供に向け、様々な地域のケアマネジャーから事例を提供頂き、各専門職から助言を得ながら進めています。事例検討会は、川越雅弘氏(国立社会保障・人口問題研究所社会保障基礎理論研究部長)をファシリテーターとし、堀田聡子氏(医療介護福祉政策研究フォーラム理事、国際医療福祉大学大学院教授)など医師・有識者を含む約100名で構成しています。

今年度は、1ヶ月に1回の頻度で開催し、計11回開催しました。具体的には、さまざまな生活課題を抱えた利用者の事例を取り上げ、実際に行ったアセスメントとケアプランを振り返り、誰がどのように課題を分析し、どのような介入に結びつけることが望ましいかを検討しました。

これまでの議論により、この事例検討会のゴールはケアマネジャーが他の専門職とより密な連携

をし、情報の集約及び共有化を図り、利用者ニーズを解決していくことであると位置づけました。今後は、参加頂いた方々の地域で同様の事例検討会が普及していくように、ファシリテーターの育成や地域での検討会開催の補助も行い、各地域でのケアマネジメント向上に繋げていく予定です。

#### (4)「地域包括ケアステーション」の実証開発プロジェクトの展開

##### ア.「地域包括ケアステーション」の実証開発プロジェクトの推進

平成 27 年 2 月より開始した「地域包括ケアステーション」の実証開発プロジェクト(以下、「本プロジェクト」といいます。)は、38 チームが参加しスタートしました。本プロジェクトの目的は、(a)地域包括ケアステーションモデルを完成すること(ただし、このモデルは常に進化していくことを内包しています)。また、実証過程で、日本の制度に適用した標準モデルの策定を検討し、地域や事業主体の異なる地域包括ケアステーションで、まずは<sup>ビュートゾルフ</sup>Buurtzorgを参考としつつサービスの実践を行い、そのサービスの評価を行うこと、(b)当財団およびプロジェクト参加団体が各地域で実践している先端モデルを広く社会へ発信すること、(c)各地域での先端モデルの評価を通じ、政策提言、特にわが国の社会保障制度の更なる進化への貢献を目指すことの 3 点です。本プロジェクトは、当初予定通り平成 28 年 3 月末をもって終了し、5 月には「成果報告会」を開催し、プロジェクトの成果を広く社会に公開しました。

今年度の「ワークショップ」などの開催は以下のとおりです。

<2016 年度>

- ・2015 年 9 月 13 日～20 日 オランダ現地研修(希望者のみ、28 人)
- ・10 月 15 日～16 日 ビュートゾルフ看護師による参加チーム訪問(5 チーム)
- ・10 月 17 日～19 日 第 3 回「ワークショップ」(27 チーム、58 人)
- ・11 月 20 日 第 4 回「ワークショップ」(30 チーム、57 人)
- ・2016 年 2 月 20 日 第 5 回「ワークショップ」(37 チーム、92 人)
- ・5 月 21 日 プロジェクト成果報告会(148 人、うちチーム参加者 60 人、一般参加者 88 名)

(参考)2015 年度

- ・3 月 13 日「キックオフミーティング」(41 チーム、88 人参加)
- ・4 月 21 日～24 日 「第1回ワークショップ」(38 チーム、63 人参加)
- ・5 月 17 日～29 日 オランダビュートゾルフへの調査派遣(財団研究員2名派遣)
- ・6 月 18 日 第2回「ワークショップ」(35 チーム、85 人参加)

## 【啓発部門】

### 地域医療・福祉の事業モデルの啓発及び地域医療・福祉に貢献する団体・個人の表彰

#### 1. 「地域包括ケアシステム」構築のための現場支援活動

##### (1) 懸賞論文の実施

当財団では、看護・介護に関わっておられる方々の貢献を称えるための一方策として、懸賞論文を通じて、その活動を広く社会に発信していきます。つまり、地域包括ケアシステムの普及には、地域住民の理解、多職種間の相互理解、そして、将来的な人材の確保が必須であり、看護・介護に携わる方々の貢献を世間に広く伝える事で理解や人材確保がなされると考えています。なお、論文と称してはいますが、事例報告、エッセイなど形式を問わないことにより、看護・介護に関わる幅広い方々の参加を促していきます。

選考は、(a)財団事務局で1次選考(応募された作品が応募要項・資格等に合致するか)を行い、(b)医師、訪問看護師、医療ジャーナリストの3名の選考委員からなる選考委員会にて、「オレンジクロス大賞」1編、「オレンジクロス優秀賞」3編を選考する方式とします。選考に際しては、選考委員が作品ごとに評価項目を点数化したうえで協議を行い、選考しております。

第2回目にあたる今年度は、以下のとおり実施しました。

- ・募集期間:平成28年3月1日～平成28年4月29日
  - ・テーマ:「伝えたい!わたしの看護・介護エピソード」
  - ・応募総数:36編(前年度12編)
  - ・賞:大賞1編30万円、優秀賞3編各10万円、選考委特別賞5万円1編を選定
- なお、受賞者は、平成28年7月15日開催の財団シンポジウム席上で、表彰しております。

##### (2) 広報誌の刊行

財団では、上記1.「「統合型生活医療の創造」のための「地域包括ケアシステム」のあり方の研究・開発活動を通じて明らかになった研究成果や様々な情報を、年2回広報誌として広く社会に提供することとしました。創刊号を2016年7月1日に刊行するため、各種取材を行いました。

- ・発行:2016年7月1日
- ・発行部数:約1200部
- ・主な配布先:財団研究関連者、首都圏在所の地域包括支援センター、全国の訪問介護事業関連会社など

### (3)公開シンポジウムの開催

地域包括ケアシステム構築に関するテーマを幅広く取り上げ、広く社会に発信するシンポジウムを開催しました。なお、このシンポジウムの中で、上記(2)で述べた懸賞論文の表彰も行いました。本年度は、以下にて行いました。

- ・開催日:平成 27 年 7 月 15 日
- ・テーマ:「自立支援を目指すロボット介護機器」
- ・講師:国立研究開発法人 産業技術総合研究所 ロボットイノベーション研究センター  
比留川 博久研究センター長
- ・参加者数:40 人

### (4)賛助会員会社との連携強化

財団の賛助会員を対象としました第 2 回賛助会員向け講演会を、以下のとおり開催しました。

- ・開催日:平成 28 年 4 月 28 日
- ・演者:PACE パートナーズ ディレクター Elizabeth R. Carty  
最高医療責任者 Jay Luxenberg
- ・演題:「ON LOK を学ぶ」
- ・参加者数:法人会員 12 法人 31 名、個人会員 2 名、計 33 名

## 【管理部門】

### 1. 公益財団法人に相応しい体制づくりに着手

本年度は、設立初年度(2015年3月)に公益認定申請を行いました。事業内容の方向性の明確化、財政基盤の確立などの懸念点があることから、2015年8月に認定申請を取り下げました。なお、財団運営は、出来る限り公益財団に準じた運営を行うこととし、これから諸体制を構築していきました。

### 2. 理事会・評議員会の開催

#### 1) 平成 27 年 8 月 17 日・第 1 回理事会(決議の省略)

平成 26 年度事業報告及び附属明細書承認の件、平成 26 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書類)及び附属明細書承認の件、及び定時評議員会の日時及び場所並びに目的事項である事項の件をみなし決議した。

#### 2) 平成 27 年 8 月 31 日・第 2 回理事会(決議の省略)

開催場所:東海大学交友会館

決議事項:公益財団認定申請取り下げの承認の件

報告事項:職務遂行状況報告の件

出席等:決議に必要な出席理事の総数 4 名、出席 6 名、欠席 0 名。監事出席 1 名。

#### 3) 平成 27 年 8 月 31 日・第 1 回定時評議員会

開催場所:東海大学交友会館 霞の間

決議事項:平成 26 年度事業報告及び附属明細書承認の件、平成 26 年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書類)及び附属明細書承認の件、公益財団認定申請取り下げの承認の件

出席等:決議に必要な出席評議員の総数 4 名、出席 5 名、欠席 2 名。理事出席 6 名。監事出席 1 名。

#### 4) 平成 28 年 3 月 15 日・第 3 回理事会(決議の省略)

理事長選任の件をみなし決議した。

#### 5) 平成 28 年 6 月 1 日・第 2 回評議員会

開催場所:トラストシティ カンファレンス・京橋 京橋トラストタワー4階 STUDIO 1

決議事項:理事補欠選任の件、平成 28 年度事業計画書及び収支予算書の承認の件、定款の一部改正の案の件、評議員、理事及び監事の報酬等並びに費用に関する規程の一部改正の件、

報告事項:平成 27 年度年度賛助会員加入報告の件

出席等:決議に必要な出席評議員の総数 4 名、出席 4 名、欠席 3 名。理事出席 4 名。監事出席 2 名

6)平成 28 年 6 月 1 日・第 4 回理事会

開催場所:トラストシティ カンファレンス・京橋 京橋トラストタワー4階 STUDIO 1

決議事項:平成 28 年度事業計画書及び収支予算書の承認の件、定款の一部改正の案の件、評議員、理事及び監事の報酬等並びに費用に関する規程の一部改正の案の件、研究企画委員会(仮称)の設置の件、定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の件

報告事項:職務遂行状況報告の件、平成 27 年度年度賛助会員加入報告の件

出席等:決議に必要な出席評議員の総数 4 名、出席 4 名、欠席 2 名。監事出席 2 名



### 3. 評議員・理事・監事・職員等(平成 28 年 7 月 1 日)

(1) 評議員 7 名

(敬称略／五十音順)

氏名	所属
村上 美晴(設立者)	セントケア・ホールディング株式会社 代表取締役会長
伊藤 伸一	社会医療法人大雄会 理事長
亀口 政史	亀口公認会計士事務所 所長 公認会計士
鳥飼 重和	鳥飼総合法律事務所 代表弁護士
西村 周三	医療経済研究機構 所長
日野 正晴	日野正晴法律事務所 弁護士
Jos de Blok	Buutzorg Nederland CEO and Founder

(2) 理事 6 名

(敬称略／理事は五十音順／※は常勤)

※村上 佑順 (代表理事)	一般財団法人オレンジクロス 理事長
川島 英明	川島法律事務所 弁護士
佐伯 剛	株式会社かぜたび舎 代表取締役社長
田中 滋	慶應義塾大学 名誉教授
辻 哲夫	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授
比留川 博久	国立研究法人産業技術総合研究所ロボットイノベーション研究センター長

(3) 監事 2 名

(敬称略／五十音順)

中田 ちず子	中田公認会計士事務所 代表
矢吹 孝男	株式会社 福祉の里 代表取締役社長

#### <職員等>

職員等 7 名

(組織編成・役職順／五十音順)

所属部門	役職 氏名
研究部門	非常勤研究員 岡本 茂雄
	非常勤研究員 谷口 奈央
	非常勤研究員 馬場 愛子
	非常勤研究員 蒔田 麻友子
	非常勤研究員 横島 一彦
事務局	事務局長 西山 千秋
	事務員 福田 真穂子

## 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

平成28年7月

一般財団法人オレンジクロス

以上